

2021年度 事業報告書

2021年4月1日から 2022年3月31日まで

特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所

1 事業の成果

2012年10月10日の開館以降、2022年3月31日時点では69,569名が訪れている。

2021年度は、4,090名にご来館いただいた。

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、昨年度に比較し徐々に回復傾向にはあるが（前年度比117%）、未だコロナ禍以前の6～7割程度の入館者数となっている。

また、2021年度は、館内空調工事、10周年記念事業として閲覧室拡張、研修室改裝、トイレ改修工事などのため、1月～3月末までの3か月間、全館休館した。

講座やイベントについては、前年度に引き続き対面方式とオンラインによる二通りの方法でおこなった。オンラインによる講義は徐々に受講生にも浸透し、一部の講義ではハイブリッド方式の講義も行った。

松江市からの受託事業である中村博士の蔵書整理事業についても、3,348点の資料を登録でき、当初の目標を達成できた。

また、蔵書以外の資料（日記、原稿、メモ、写真、書簡など）についても大掛かりな資料探査作業を進め、資料を登録するためのソフトウェアを開発した。一般の博物館の資料登録方法に加え、中村元博士独自の資料分類などについても正確に記録を行いながら、一つ一つ丁寧に登録作業をすすめている。蔵書以外の資料の適切な保存・管理方法については、さらに調査・研究を進め、また、専門家にも意見を伺いながら、データベースの構築を図っていきたい。

中村元博士の少年時代の作文集『はじめのはじまり 一中村元博士 少年時代の作文集一』（A5版 139ページ）を出版した。出来上がった書籍は県内の小・中高校、図書館に寄贈した。

2 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施事業の 日時・場所、 従事者の人数	受益対象者 の範囲 及び、人 数、評価	事業費の 金額 (単位：千円)
故中村元博士の蔵書の管理及び中村元記念館の管理と運営	1. 中村元博士蔵書整理事業 2. 中村元記念館管理・運営		別紙参照	15,008
東洋思想・文化に 係る研究、講座、イ ベントなどの実施	1. 中村元記念館各種講座の 運営 2. 研究員による研究活動 3. 企画展 4. 中村元東洋思想文化賞 5. 大学連携事業		別紙参照	1,796
東洋思想・文化の 普及、啓発のため の出版及び広報事 業	1. 出版事業 2. 博物館/施設との連携 3. メディア対応 4. その他広報活動 5. ミュージアムショップ運 営		別紙参照	1,565
国際文化交流事業	1. アジア文化紹介事業		別紙参照	10
地域の文化、経済、 観光、人づくりを 推進するために必 要な事業	1. 地域・行政との交流事業 2. 子ども教育事業 4. 旧八束教員住宅(通称) 「はじめハウス」の利活用		別紙参照	60

3 会議に関する事項

(1) 理事会

◆第1回 理事会（開催年月日 2021年5月22日）

開催場所 中村元記念館 応接室

出席者数 13名（うち表決委任者 9名）／理事人数 13名

議決事項の概要

第1号議案 2020年度 事業報告に関する件

第2号議案 2020年度 決算報告 および 監査報告に関する件

第3号議案 2021年度 事業計画に関する件

第4号議案 2021年度 予算に関する件

第5号議案 役員変更について

第6号議案 役員報酬支給額について

第7号議案 その他 報告事項

◆第2回 理事会（開催年月日 2021年6月1日）

開催場所 中村元記念館 応接室

出席者数 13名（うち表決委任者 9名）／理事人数 15名

議決事項の概要

第1号議案 理事長 副理事長の選任について

(2) 総会

◆総会（開催年月日 2021年 5月27日）

開催場所 中村元記念館 応接室

出席者数 17名（うち表決委任者 12名）／正会員数 18名

議決事項の概要

第1号議案 2020年度 事業報告に関する件

第2号議案 2020年度 決算報告 および 監査報告に関する件

第3号議案 2021年度 事業計画に関する件

第4号議案 2021年度 予算に関する件

第5号議案 役員変更について

第6号議案 役員報酬支給額について

第7号議案 その他 報告事項

【別紙】

特定非営利活動法人
中村元記念館東洋思想文化研究所

2021年度 事業報告書



中村元記念館

Nakamura Hajime
Memorial Hall
नाकामुरा हाजीमे म्यारक मनागृह

内容

▽2021年度 事業報告	5
I 入館者数	5
II 個別事業報告	6
(1) 故中村元博士の蔵書の管理及び中村元記念館の管理と運営	6
(2) 東洋思想・文化に関わる研究、講座、イベント等の実施	8
(3) 東洋思想・文化の普及、啓発のための出版及び広報事業	11
(4) 国際文化交流事業	14
(5) 地域の文化、経済、観光、人づくりを推進するために必要な事業	14

▽2021年度 事業報告

I 入館者数

2012年10月10日の開館以降、2022年3月31日時点で延べ69,569名が訪れている。2021年度は、4,090名にご来館いただいた。

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、昨年度に比較し徐々に回復傾向にはあるが（前年度比117%）、未だコロナ禍以前の6～7割程度の入館者数となっている。

引き続き感染防止の全館消毒作業を行うため、1時間の時短営業をおこなっている。

また、2021年度は、館内空調工事、10周年記念事業として閲覧室拡張、研修室改裝、トイレ改修工事などのため、1月～3月末までの3か月間、全館休館した。

オンラインによる講義は徐々に受講生にも浸透し、一部の講義ではハイブリッド方式の講義も行った。今後この講義方式も広げていきたい（なお、オンラインでの講義、イベント参加者は入館者数に含めていない）。

月別入館者数

月	2020年度 入館者数（人）	2021年度 入館者数（人）	対前年比（%）
4月	0	376	
5月	0	568	
6月	411	546	133
7月	366	348	95
8月	355	396	112
9月	343	371	108
10月	391	570	146
11月	524	475	91
12月	380	440	116
1月	20	0	0
2月	282	0	0
3月	419	0	0
合計	3,491	4,090	117
月平均	291	341	
累計	65,479	69,569	

II 個別事業報告

(1) 故中村元博士の蔵書の管理及び中村元記念館の管理と運営

1. 中村元博士蔵書整理事業(松江市より受託)

事業の目的	松江市から委託された中村元博士の蔵書を整理・公開することで、松江市の歴史的財産として保存するとともに、研究者の利用のみならず、一般の来館者の皆様にも広く観覧していただく。
実施期間	通年
実施人数	職員:7名、ボランティア のべ43名
事業内容	<p>■蔵書整理・登録</p> <ul style="list-style-type: none">平成26年度に導入した図書管理ソフトGANGAとNACSIS接続ソフトMILAGROにより、国立情報学研究所が運営する総合目録データベース(NACSIS-CAT)を利用し、自館とNACSIS-CATへの登録を実施。2021年度は、図書2,838冊、雑誌510冊、合計3,348冊の登録を完了した。(通算登録冊数:23,238冊)。 <p>■蔵書の公開</p> <ul style="list-style-type: none">記念館のOPAC(オンライン蔵書検索システム)登録による公開と、常設展示、企画展等で順次公開。登録作業が進む中、連携大学をはじめとした全国の大学、研究員、一般の方からの閲覧申請が増加。 宮城県美術館より国会図書館と中村元記念館にしか所蔵が確認できない資料についての問い合わせがあり、希少価値がある蔵書資料を所有していることについて再確認するとともに、今後このような問い合わせが増加することが考えられるため、登録・整理作業をしっかりと進めていきたい。 <p>■資料登録・整理作業</p> <ul style="list-style-type: none">2021年度は、中村元博士の少年時代の作文集の発刊に向けて、図書以外の資料について大掛かりな資料探査作業を進めた。中村元博士の蔵書・原稿は、記念館スタッフの他、アルバイト3名、また外部ボランティアの協力なども得ながら、資料の確認作業を行った。これまでの中村元博士の資料調査の結果を踏まえ、新たに資料登録のためのソフトウェアを開発した。

	<p>一般の博物館の資料登録方法に加え、中村元博士独自の資料分類などについても正確に記録を行いながら、一つ一つ丁寧に登録作業をすすめている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書以外の資料(日記、原稿、メモ、写真、書簡など)の適切な保存・管理方法については、さらに調査・研究を進め、また、専門家にも意見を伺いながら、データベースの構築を図っていきたい。 ・資料によっては破損や劣化も進んでいるため、一刻も早く、適切な保存状態に向けての作業が必要となってくる。そのための保存用資材の確保が必要である。 <p>* 資料燻蒸：出雲歴史博物館へ依頼（12月、3月）</p>
--	--

2. 中村元記念館管理・運営事業

事業の目的	中村元博士の業績を広く一般の人に顕彰する。 記念館運営を滞りなく行うための事業。
実施期間	通年
実施人数	職員・スタッフ：5名（通年）
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 団体見学 2021年度はコロナウイルス感染防止のため、団体見学は行わなかった。 ■ 研修参加 <ul style="list-style-type: none"> ①NPOマネジメント研修「監査の役割」 8月26日 オンライン研修 職員2名参加 ②西田幾多郎記念哲学館・富山大学図書館視察研修 2022年2月23日～25日→ コロナウイルス感染拡大のため延期 ■ 消防・避難訓練 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 11月16日（合同避難訓練）職員 5名参加 第2回 2022年3月28日 消火設備訓練 5名参加 ■ 中村元記念館館内施設改修工事 2022年1月20日～3月末 <ul style="list-style-type: none"> ・図書閲覧室拡張工事

	<ul style="list-style-type: none"> ・研修室改修工事 ・男女トイレ改修(和式→洋式) ・ミュージアムショップ書棚新設 ・受付改修工事 他
--	---

(2) 東洋思想・文化に関わる研究、講座、イベント等の実施

1. 中村元記念館各種講座の運営(東方学院松江校 中村元記念館文化講座)

事業の目的	「東洋思想の世界的権威」である中村元博士の私塾「東方学院」の理念を継承すべく「東方学院松江校」・「中村元記念館文化講座」を開講する
実施期間	2021年4月1日～2022年3月31日
実施人数	職員:5名(通年) 講師:22名
事業内容	<p>■今年度の講義は当初東方学院松江校、中村元記念館文化講座を合わせて22講座を開催した。コロナウイルス感染症の拡大のため、当初対面方式で行う予定の講座を急遽オンライン方式、ハイブリッド形式に変更して開講した講座もあった。</p> <p>〈開催講座数〉 (講義回数減の講義も含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東方学院松江校 17講座 ・中村元記念館文化講座 5講座 <p>*のべ受講申込者数:150名</p> <p>■オンライン講座</p> <p>オンライン会議システムを利用した講座の実施も定着しつつある。高齢者のオンライン受講についても、事前にZOOMの研修を個別に行うなど、丁寧に対応した結果、オンライン受講生の数も順調に増加している。</p> <p>今後も、このような方法を広め、これまで受講が困難だった遠隔地在住の受講生のオンライン参加も広めていきたい。</p>

2. 研究員による研究活動

事業の目的	中村元記念館東洋思想文化研究所研究員:9名。 故中村元博士が開拓された学問の道を探求し、山陰地域の学術・文化の振興に寄与することを目的として、研究活動を行っている
実施期間	通年
実施人数	研究員 9名
事業内容	<ul style="list-style-type: none">■ 中村元博士少年時代の作文集『はじめのはじまり』原稿執筆(一部)■ 研究員による書籍発行<ul style="list-style-type: none">・公立鳥取環境大学開学20周年記念 ASALAB 論文集 『ブータンの風に吹かれて 一中後期密教空間の比較文化―』 浅川滋男(編)公立鳥取環境大学 2022. 3月

3. 企画展の開催

事業の目的	中村博士少年時代の作文集発刊に関連した展示、また、聖徳太子大遠忌1400年の節目に、中村元博士の著作とともに関連資料を展示した。 また、地元の方の展示として、松江市在住の水墨画家 梶田幹穂氏の作品展示を行った。
実施期間	下記のとおり
実施人数	職員 5名他
事業内容	<ul style="list-style-type: none">①写真展 「ゴーダマ・ブッダ聖地巡礼の旅」 — 中村元記念館研修旅行の思い出 — 期間: ~4月 18日②「中村元博士のインド旅行～中村元記念館収蔵品より～」 期間: ~7月 18日 中村元博士が初めてインドを旅した1952年の日記、1951年に取得した最初のパスポートや博士の旅行調査を基に書かれた著書(中村元博士蔵書)を展示。③「中村元と聖徳太子～聖徳太子大遠忌1400年～」 期間: 7月 20日～12月 26日

	<p>④夏休み特別展『中村元少年の絵画帳』 * 中村元博士少年時代の作文集編纂事業県連展示 期間：7月20日～9月30日</p> <p>⑤「中村元少年の読書録～少年時代の日記より～」 * 中村元博士少年時代の作文集編纂事業県連展示 期間 10月10日～12月26日</p> <p>⑥特別展 梶田幹穂墨画展「水墨画の魅力」 期間 5月11日～6月13日</p>
--	--

4. 中村元東洋思想文化賞

事業の目的	連携大学を含む全国の国公立大学及び私立大学100校を対象に、大学生・大学院生の優れた論文を広く顕彰し今後の研究を奨励することを目的とする
実施期間	2022年に延期
実施人数	職員5名ほか
事業内容	コロナウイルス感染拡大のため、審査を延期し、2022年度応募論文と一緒に審査し、授賞式を行う。

5. 大学連携事業

事業の目的	インド哲学や仏教学を学べる大学や、その他近隣の大学、大学院と連携することで、高等教育の場で、記念館を活用していただくことを目的とする
実施期間	下記の通り
実施人数	職員スタッフ5名ほか 連携大学ほか
事業内容	<p>■放送大学島根学習センター 開設25周年記念公開講演会 実施日 11月23日 実施場所 松江市市民活動センター 中村元記念館理事 清水谷善暉氏 演題「東洋思想研究の世界的権威 中村元と松江」</p> <p>■大阪観光大学 佐久間留理子教授 資料調査のため来館</p>

	<p>■武蔵野大学 丸井 浩先生とその科研メンバーによる中村元記念館資料調査と、オンライン報告会の実施。 日程:2022年3月10日</p> <p>■連携大学の事業紹介を行った(ポスター掲示、パンフレット、チラシの配架など)</p>
連携先	大正大学、立正大学、佛教大学、島根大学、島根県立大学、東京大学(インド哲学仏教学研究室)、東洋大学、武蔵野大学、龍谷大学、大谷大学

(3) 東洋思想・文化の普及、啓発のための出版及び広報事業

1. 出版事業

事業の目的	中村元博士の業績やその理念を広く顕彰する
実施期間・人数	通年 職員5名
事業内容	<p>■『はじめのはじまり 一中村元博士 少年時代の作文集一』(A5版 139ページ)を出版し、県内小・中高校、図書館に寄贈した。</p> <p>■「慈しみの心」山陰中央新報社 編集協力</p>

2. 博物館/施設との連携

事業の目的	広く全国の方へ東洋思想・哲学を普及するため、哲学者を顕彰する全国の施設と連携し普及活動を推進
実施期間・人数	通年 職員5名
事業内容	■連携協定を結んでいる「史跡足利学校」ほか、石川県金沢市「鈴木大拙館」、石川県かほく市「石川県西田幾多郎記念哲学館」をはじめ、古代出雲歴史博物館など近隣の博物館や美術館などとはパンフレット・ポスターの掲示など広報についての連携を継続中。

3. メディア対応

事業の目的	中村元博士、記念館の紹介、博士の業績の顕彰などのため、各種媒体、メディアへの取材対応、記事掲載依頼を行った
実施期間・人数	通年 職員・スタッフ 8名
事業内容	<p>①新聞記事掲載（「慈しみの心」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山陰中央新報『第1面 「慈しみの心」毎日掲載 <p>②「慈しみの心」除く新聞記事掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山陰中央新報 情報 BOX 企画展・イベント情報掲載 ・りびえーる（山陰中央新報）企画展情報掲載 ・山陰中央新報 中村元先生の思い(松江市、I、58歳) 2021.4.25 ・山陰中央新報 『春の叙勲 島根38人、鳥取44人』「山陰の経済をけん引」旭日中綬章 古瀬誠さん 2021.4.29 ・山陰中央新報 中水墨画巧みな技（「梶田幹穂水墨画展 水墨画の魅力」取材） 2021.5.14 ・山陰中央新報 チベット仏教求法僧「能海寛と宇内一純宗教」—明治の国粹とグローバリズム(浅川滋男) 2021.5.15 ・島根日日新聞 『現代的な水墨画並ぶ』梶田幹穂さん「水墨画の魅力」展 2021.5.24 ・山陰中央新報 「慈しみの心」に教えられる 松江市 吉岡三郎 92歳 投稿 2021.5.28 ・朝日新聞 『島根の風景・伝統 水墨画に』「松江の画家・梶田さん作品展」 2021.5.30 ・山陰中央新報 中村元少年の絵画 2021.7.11 (中村元少年の絵画帳取材) ・山陰中央新報 読者ふれあいページ:中村元「慈しみの心」について 2021.8.15 ・山陰中央新報 全日本佛教徒会議 島根大会 オンライン参加のご案内（協力:中村元記念館） 2021.9.9 ・山陰中央新報 仏法通じ世界平和願う 全日本佛教徒会議 島根で初開催(協力:中村元記念館) 2021.10.3 ・山陰中央新報 八雲会「へるん」58号を読む 2021.10.6 ※横山純子研究員、岡崎秀紀研究員執筆 ・山陰中央新報 「行基の供養堂」CG 復元～奈良・菅原遺跡 鳥取環境大学浅川教授(中村元記念館研究員)が制作 2021.11.9 ・山陰中央新報 思想家の原点は 2021.11.29(中村元少年の読書録取材)

	<p>③八束公民館だより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月号 2022年1月第177号 「中村元記念館休館のお知らせ」 ・2月号 2022年2月 第178号、3月号 2022年1月 第165号 「中村元記念館 ミニ展示のご案内」 ・八束のひろば 八束公民館報第22号(2021年4月号)、第23号(2021年8月号)、第24号(2021年12月号) 中村元博士が残した『慈しみあふれる言葉』を紹介します④～⑥ <p>④テレビ取材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーブルテレビ まるまる松江 「梶田幹穂水墨画展 水墨画の魅力」 2021.5.21 放送
--	---

4. その他広報活動

事業の目的	中村元記念館及び東洋思想に興味を持つていただきため、チラシやパンフレットだけでなく、ホームページやブログ、フェイスブック・Twitter など様々な媒体を通じて情報発信を行った
実施期間・人数	通年 職員5名
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・記念館紹介パンフレットの配布(約300部) ・ご支援のお願いのパンフレット配布(約1000部) ・ホームページの運営(講座・イベント情報等適宜発信中) ・メールマガジンの発行 No115～No130(16回) ・フェイスブックの運営(24回更新) ・ブログの運営(23回更新) ・島根いきいき広場(2回:イベント情報掲載) ・中海テレビ放送 みんなの伝言板 1回配信 ・Twitter配信(16回)

5. ミュージアムショップ運営

事業の目的	一般書店では手に入りにくい中村元博士の著作、東洋思想、仏教関連書籍など、専門書籍を幅広く取りそろえ、来館者の知へのニーズを満たす。記念館オリジナルのお土産品の提供による、来館者満足度の向上
実施期間・人数	通年 職員5名
販売グッズ	<p>哲学、東洋思想などの専門書籍を充実させた。 出版社の協力もあり、現在、CDやDVDなど映像資料なども併せると約400種に迫る品揃えとなっている。 ポップや、陳列方法など、購買意欲をそそるよう工夫した。</p>

(4) 国際文化交流事業

1. アジア文化紹介事業

事業の目的	中村元記念館の認知度向上や、新規来館者の獲得を目的とし、広く一般の方を対象に中村元博士が研究されたアジア地域について紹介し、文化的な交流を促進する
実施期間・人数	通年 職員 5 名
事業内容	①日印文化功労章表彰 2021年10月16日 オンライン表彰式 理事長 清水谷善圭 ②在大阪・神戸インド総領館 総領事 ニキレーシュ・ギリ氏来館 2021年12月7日

(5) 地域の文化、経済、観光、人づくりを推進するために必要な事業

1. 地域・行政との交流事業

事業の目的	行政、民間、地元八束町の要望に沿った交流事業を実施し、中村元と記念館を知っていただく契機とする。
事業内容	<ul style="list-style-type: none">■2021年10月14日:第9回中村元記念館杯八束町、世代間交流 GG 大会の開催協力 八束町グラウンド・ゴルフ協会主催 スタッフ 1名・副理事長■中村元記念館館内改修工事のため休館中の2022年1月～3月の期間、複合施設1階の八束公民館 ロビーにて、「中村元記念館ミニ展示」を開催。■八束公民館 掲示板 中村元博士が遺した「慈しみあふれる言葉」紹介事業への協力■公民館だよりなどへの取材協力
連携先	八束公民館、松江北商工会、八束町内の自治会・松江観光協会など

2. 子ども教育事業

事業の目的	記念館で中村博士の「慈しみ」の心にふれてくれることで、小中学生の情操教育に役立てる。また、高校生・大学生にも自習室を解放し、利用してもらう。
実施期間・人数	通年 職員 5名
事業内容	<p>① 中学生職場体験 コロナウイルス感染防止のため中止</p> <p>② 自習室の開放 記念館の静かな環境で、勉強や読書を行ってもらえるよう、小・中・高・大学生に自習室を開放した。 その他 図書閲覧室での自習利用多数</p> <p>③ さるすべりコーナーでの文化紹介本の設置 今年度は、コロナウイルス感染防止対策のため、配架書籍の数を制限し、貸し出しリストを配置することで安全に読んでいただけるように対応した。</p> <p>④ 『はじめのはじまり 一中村元博士 少年時代の作文集一』 (A5版 139 ページ)を出版し、県内小・中・高校図書室、県内図書館に寄贈した。 八東学園は全校生徒に配布を行った。</p>

4. 旧八東教員住宅(通称「はじめハウス」)の利活用

事業の目的	中村元記念館および利用者の行う会議、研究、宿泊、イベントなどの用途に対して、旧八東教員住宅を提供し、活用することなどで、周辺地域の活性化を促進する。
実施期間・人数	通年 職員 5名
事業内容	■コロナウイルス感染拡大のため、一般利用ができない間、蔵書整理のための作業場所、工事期間中の蔵書・資料保管場所として活用した。